

2. 事業の概要と成果

(1) 上位目標の達成度

上位目標「ンチシ県における妊産婦死亡率、乳幼児死亡率、罹患率および死亡率の低下」について、本事業が開始した2013年と終了した2015年との指標比較は以下のとおりである。

指標	2013 年	2015 年
妊産婦死亡率 (/100,000)	233	210
乳児死亡率 (/1,000)	36	14

※出典：ンチシ県保健省 (Ntchisi District Health Office)

妊産婦死亡率、乳児死亡率ともに低下傾向が見られた理由については、本事業で医療施設が整備されたことで、施設で出産する住民が増えたこと、産前・産後のケアが適切に実施できるようになったことが大きく寄与したと推察できる。

2015年11月、本事業支援実施4地域にて実施したワールド・ビジョンによる受益者への聞き取り（総計377名）では、出産時に医療従事者からアドバイスを受け、産後ケアを受けた母親が増えた（2013年26.7% → 2015年42.6%）。正しい授乳方法や突然の病気への対応（マラリヤや下痢等）など、母親たち自身が学び、日々の生活の中で実践するようになったことが貢献要因の1つと考えられる。計画指標として挙げていた「5歳未満児死亡率」のデータは入手できなかったが、本事業を通して医療施設整備を行ったことにより、乳幼児の健康改善にも大きく関係する産前・産後ケアに今後も注力していくことができる環境を整えられたことから、さらなる乳児死亡率及び罹患率の低下、また5歳未満児死亡率の低下にも寄与していくことが期待される。

上記から、本事業は上位目標の達成に向けてプラスの効果をもたらしている、と考えられる。

(2) 事業内容

ンチシ県は、地形が険しく公共交通手段もないため、医療施設へのアクセスがきわめて悪い。加えて県内12の医療施設には、妊産婦（付添者を含め）が待機できる設備がなく、自宅での待機や自宅出産を選ぶ妊産婦が多かった。本事業では、医療施設および待機所（宿泊施設）を建設、整備し、安全に出産できる環境を整えることを目的とした。

【第1年次】

- イ) 産科棟のない2地域に産科棟を建設する
- ロ) 医療施設に設備・器具を整備する
- ハ) 医療施設での出産を促すポスターの作成・配布
 - 産前健診の受診を促すカレンダー付ポスター 1,970枚
 - 産科棟での出産を促すポスター 1,827枚
 - 産後健診の受診を促すポスター 1,827枚

【第2年次】

- イ) 既存の医療施設に安全なお産のための待機所を設置する
- ロ) 2地域で水道施設を建設・整備する

	【第3年次】 イ) <u>既存の医療施設に安全なお産のための待機所を設置する</u> ロ) <u>産科棟に電気設備を設置する</u> ハ) <u>焼却炉、歩道の整備</u>																																	
(3) 達成された成果	【成果1】 産科関連設備の充実・改善 県内の医療施設（県病院1カ所、ヘルスセンター11カ所）に、適切な産科ケアを実施する体制を整えるため、産科関連施設・設備の整備を行う。 <table><tr><th>指標</th><th>計画（変更後）</th><th>実施</th></tr><tr><td>完成した産科棟の数</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>完成した待機所の数</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>最低限必要な機具が設置された産科棟の数</td><td>2</td><td>2</td></tr></table> 【成果2】 基礎的な医療関連施設の改善を通じた医療サービスの向上 県内の医療施設の基礎的な設備およびそれに付随する設備の改善を通じて、ンチシ県の全体的な医療サービスの向上に貢献する。 <table><tr><th>指標</th><th>計画（変更後）</th><th>実施</th></tr><tr><td>整備した水道設備の数</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>ソーラー発電装置を設置した医療施設の数</td><td>1</td><td>1</td></tr></table> プログラム目標「ンチシ県における妊産婦可能年齢の女性（対象者28,170名）及び2歳未満の子ども（同16,590名）の健康状態改善」について、本事業が開始した2013年と終了した2015年との指標比較は以下のとおりである。 <table><tr><th>指標</th><th>2013年</th><th>2015年</th></tr><tr><td>①全出産数に対する未熟児の割合</td><td>4.7%</td><td>4.8%</td></tr><tr><td>②全出産数に対する死産の割合</td><td>1.8%</td><td>1.8%</td></tr><tr><td>③資格のある助産師の介助を受けたお産の割合</td><td>74.0%</td><td>93.4%</td></tr></table> ※出典：ンチシ県保健省（Ntchisi District Health Office）	指標	計画（変更後）	実施	完成した産科棟の数	2	2	完成した待機所の数	4	4	最低限必要な機具が設置された産科棟の数	2	2	指標	計画（変更後）	実施	整備した水道設備の数	2	2	ソーラー発電装置を設置した医療施設の数	1	1	指標	2013年	2015年	①全出産数に対する未熟児の割合	4.7%	4.8%	②全出産数に対する死産の割合	1.8%	1.8%	③資格のある助産師の介助を受けたお産の割合	74.0%	93.4%
指標	計画（変更後）	実施																																
完成した産科棟の数	2	2																																
完成した待機所の数	4	4																																
最低限必要な機具が設置された産科棟の数	2	2																																
指標	計画（変更後）	実施																																
整備した水道設備の数	2	2																																
ソーラー発電装置を設置した医療施設の数	1	1																																
指標	2013年	2015年																																
①全出産数に対する未熟児の割合	4.7%	4.8%																																
②全出産数に対する死産の割合	1.8%	1.8%																																
③資格のある助産師の介助を受けたお産の割合	74.0%	93.4%																																

全出産数に対する未熟児の割合及び死産の割合には、大きな変化が見られなかった。一方で、資格のある助産師の介助を受けたお産の割合は 74.0%から 93.4%に上がり、ンチシ県の事業地では、妊産婦の多くが助産師の立ち合いのもと出産ができるようになったことを示している。

「健康状態改善」についての関連指標として、ワールド・ビジョン内部で実施した事業地での聞き取りを以下に示す。ここでは 2 歳未満児を対象とした予防接種率の増加、及び産後ケアを受けた母親が増加したことが認められた。ここには、第 1 年次に実施した啓発キャンペーン（後述、【成果 1】（ハ）参照）で産科棟及び関連施設利用が住民に周知されたことも増加要因の 1 つと推察される。

指標	計画（変更後）	実施
2 歳未満児の予防接種率	50.3%	65.2%
産後 1 週間以内に 2 回クリニックにて産後ケアを受けた母親	26.7%	42.6%

出典：ワールド・ビジョン聞き取り（2015 年 11 月実施）

さらに新設した施設利用率は、産科棟、待機所ともに該当数の 7 割弱と高く、施設での出産も事業開始前の 6 割から終了時には 9 割強に増加している。出産介助についても、9 割強が有資格者による介助となった。

指標	産科棟	待機所
新設施設の活用	68.7%	69.1%

指標	2013 年		2015 年	
	施設	自宅	施設	自宅
出産場所	60.3%	39.6%	93.4%	6.6%

指標	有資格	無資格	有資格	無資格
出産の介助	74.3%	25.7%	93.5%	6.5%

出典：ワールド・ビジョン聞き取り（2015 年 11 月実施）

(4) 持続発展性	本事業最終年度にあたり、建設施設や設備の維持・管理につき、本事業終了後も活動を確実に継続・実施できるよう体制を強化した。(詳細は以下参照)。さらにンチシ県においては、ワールド・ビジョンが2007年より4つの柱(安全な水の提供を目指した水資源開発、乳幼児を中心とした感染症対策、子どもたちの栄養改善、保健ボランティア訓練)を中心とした自己資金事業(地域開発プログラム)を行っている。本事業終了後も必要に応じ、活動持続の観点から、母子保健対策の一環としてフォローアップする。 ① 事業で建設した施設、設備はンチシ県の管理のもとに活動が維持されるよう、地域住民や関係省庁の参加のもと譲渡式を行い、啓発に努めた。 ② 事業で使用した設備機器等もンチシ県保健省へ譲渡し、その活用・管理についても同県と別途、文書を取り付け、ンチシ県の管理のもとで活動が継続する体制を整えた。
------------------	--